

IV 「幼児理解の理論及び方法」の教職課程コアカリキュラムとモデルカリキュラム

1. 「幼児理解の理論及び方法」の教職課程コアカリキュラム³

幼児理解の理論及び方法

全体目標： 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活及び遊びの実態に即して、幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法を考えることができる。

(1) 幼児理解の意義と原理

一般目標： 幼児理解についての知識を身に付け、考え方及び基礎的態度を理解する。

- 到達目標：
- 1) 幼児理解の意義を理解している。
 - 2) 幼児理解から発達及び学びを捉える原理を理解している。
 - 3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。

(2) 幼児理解の方法

一般目標： 幼児理解の方法を具体的に理解する。

- 到達目標：
- 1) 観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - 2) 個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解している。
 - 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係及びその他の背景から理解することができる。
 - 4) 保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解している。

³ “(資料 2-2) 各事項に係るコアカリキュラム (案)”. 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会 (第 4 回). 東京, 2017/3/27,.

2. 「幼児理解の理論及び方法」のモデルカリキュラム

前述の教職課程コアカリキュラム「幼児理解の理論及び方法」は、1単位で考えている。しかし、おそらく多くの養成課程では、2単位で開講していると思われる。当然のことだが、それぞれの授業担当者の学問的基盤（幼児教育、臨床学等）により、プラス1単位の内容は異なってくる。このモデルカリキュラムでは、こうした現状を踏まえ、幼児教育を専門とする場合と、臨床学を専門とする場合の両方に配慮して、授業モデルを提示している。各大学等におけるシラバス作成の際、参考にしていただきたい。

「幼児理解の理論及び方法」（2単位）

（全体目標、一般目標は、教職課程コアカリキュラムと共通である）

全体目標：

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活及び遊びの実態に即して、幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法を考えることができる。

（1）幼児理解の意義と原理

一般目標：

幼児理解についての知識を身に付け、考え方及び基礎的態度を理解する。

到達目標：

- 1) 幼児の遊び及び生活の実態に即した幼児理解の意義を理解している。
- 2) 家庭、幼稚園、地域等の幼児を取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義を理解している。
- 3) 幼児理解から発達及び学びを捉える原理を理解している。
- 4) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。

（2）幼児理解の方法

一般目標：

幼児理解の方法を具体的に理解する。

到達目標：

- 1) 観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
- 2) 個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解している。
- 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係及びその他の背景から理解することができる。
- 4) 保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解している。

〔留意事項〕

- 1) 幼児理解の過程においては、事例や映像資料、幼稚園等における観察を通して、具体的な幼児の姿とともに理解できるようにする。

- 〔留意事項〕
- 2) 幼児理解の目的に応じて、環境図、エピソード記録、ポートフォリオやドキュメンテーションなどの記録を工夫できるようにする。
 - 3) 観察記録の分析・考察に当たっては、発表や協議の場をつくり、学生の幼児理解の道筋や根拠について確認しながら、アクティブ・ラーニングの視点で授業を展開し、多様な受け止めができることに気付かせていく。
 - 4) 学生が幼児の発達や学びを捉える視点を理解した上で保育（幼児や生活の場面）を観察することができるように、授業の配列を行う。

考えられる〈授業モデル〉

- 1) 幼児の発達及び子育て支援に関わる現代的課題の特徴について、統計資料や保育実践に関わる研究の知見などから理解できるように解説する。
(1) - 1)
- 2) 指導計画や教師の援助等と関連させて振り返りや評価を行い、幼児理解を深めることの重要性（指導と評価の一体化）について、具体例を示しながら解説する。
(1) - 1)、(1) - 3)、(1) - 4)
- 3) 幼児のけんかやつまずきの場面の映像や事例を基に、幼児の内面を捉える視点について講義を行い、その視点からグループ協議により分析・考察する。
(2) - 2)、(2) - 3)
- 4) 実際の保育場面を観察・記録し、整理することを通して、理論で理解したことを体験できる機会をつくる。多面的な理解につなげるため、各学生の分析・考察結果について発表やグループ協議を行い、主体的・対話的な授業展開を工夫する。
(2) - 1)、(2) - 2)
- 5) 登園を嫌がる、気持ちや行動をコントロールしにくい、緊張度が高く自分らしさを表現しにくいなどの気になる行動への対応について、事例を通して、その背景や要因を理解し、基本的な対応について理解できるようにする。
(1) - 2)、(2) - 3)、(2) - 4)
- 6) 受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢（カウンセリングマインド）や技法を理解できるように講義を行うとともに、保護者の子育てへの不安や葛藤等を受け止め、理解し、対応する実践的な技能を身に付けるロールプレイなどの演習を行う。
(2) - 3)、(2) - 4)
- 7) 地域の子育て支援センターや民生委員等、幼児の生活や学びに関わる専門機関等との連携の意義、及び園内の協力体制について、具体的な事例を基に考える。
(2) - 3)、(2) - 4)

*上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。